

## 国際共産主義者同盟(ICL)の国際原則宣言への序文

2010 年末に開かれた国際共産主義者同盟（第四インターナショナリスト）（ICL）第 6 回大会は、1998 年の第 3 回 ICL 大会で採択された ICL 「国際原則の宣言と綱領のいくつかの諸要素」にいくつかの修正を加えることを投票して決定した。宣言の修正版よりむしろ序文という形で出すことを通じて、我々は、革命的労働運動の歴史的文書に必要な拡張または追加をするにあたり、マルクス主義の先人たちの慣習に従う。

修正のなかの最も主要な点は、2007 年の第 5 回 ICL 大会で採択された立場で、資本主義国家において執行職務に立候補することに原則的に反対するというものである。これは、原則の宣言の第 11 項目に示された立場、すなわち「改良主義の労働者党（レーニンによって規定されたような『ブルジョア労働者党』）によって形成される議会に基づく政府は、資本主義支配に貢献する資本家の政府である」ということを論理的に拡張したものである。改良と革命との間の根本的な境界線は、ブルジョア国家に対する態度である。すなわち、既存の国家機構を掌握して、それを労働者の利益のために運営することができるという改良主義の視点と、それに対し資本主義国家機構はプロレタリア革命を通じて粉碎されなければならないというレーニン主義の理解との間に横たわる境界線である。マルクス主義者は、反対者として、革命的宣伝の演壇としてブルジョア議会諸組織の職務を利用し、そうした組織に立候補することがあり得る。しかしその一方で、我々が実際 2007 年以前に言ったように、執行職務に立候補することに関する問題は、たとえ選出されても、そうした職務を絶対受け入れないとあらかじめ断言する場合でさえ、国家についての広く行き渡った改良主義的な概念に正当性を与えるということである。我々の「資本主義国家の執行職務を打倒せよ！ マルクス主義の原則と選挙戦術」（『Spartacist』[英語版] No.61、2009 年春）という記事は、この理解の歴史的発展をたんねんに詳細に仕上げた。そして我々のレーニン主義とトロツキー主義の先人たちの実践、すなわち 1920 年の共産主義インターナショナル (CI) 第 2 回大会で、議会主義の問題に関する不完全で混乱した議論から部分的に生じた実践とどのように違うかを提示している。第 5 回 ICL 大会の文書は次のように述べている。「執行職務に立候補することに反対する立場を採択するなかで、我々は、レーニンによる『国家と革命』と『プロレタリア革命と背教者カウツキー』への当然の帰結として理解されるべきことを認識し成文化している。こうしたレーニンの文書は、実際第三インターナショナルの創立文書となっている。…このようにして我々は、CI の最初の 4 つの大会の理論的で綱領的な仕事を完成し続けている。」

原則の宣言に追加した 2 点目は、中国、北朝鮮、ベトナム、キューバとともに、残存する官僚主義的に歪曲された労働者国家の一つとしてラオスを含めたことである。ベトナム戦争の間、プチブル平和主義、階級協調そしてスターリニスト民族主義のあらゆる変種に反対して、我々は「全インドシナは共産主義にならなければならない！」と呼び掛けた。[北]ベトナム民主共和国と南ベトナム民族解放戦線の勢力による 1975 年 4 月 30 日のサイゴン占領は、米帝国主義とその南ベトナムにおけるブルジョア及び地主の傀儡政権に対するベトナム革命の勝利を意味した。数週間後、スターリニストが導く農民を基盤としたパテト・ラオのゲリラ反乱者がラオスで国家権力を獲得したとき、我々はスパルタシスト同盟／米国の若者の新聞のなかで次のように書いた。「その封建的そして前封建的でさえある部族的生産諸関係が広く行き渡ったなかで、スターリニストによって確立されたラオス国家は、隣国のより進んだベトナムと中国の歪曲された労働者国家に寄りかかり、それらの国家の社会的性格を帯びる傾向をもっている」（『Young Spartacus』No.33、1975 年 6 月）。しかしながら、その後、我々は、ラオスが歪曲された労働者国家であり、インドシナ革命の勝利以来ずっと歪曲された労働者国家であったという理解を成文化しなかった。ラオス共産党員は常にベトナム共産党員と緊密に結び付いてきた。いったん権力に就くと、ラオスのスターリニストは、比較的より強力で経済的に進んだベトナムの歪曲された労働者国家とともにそしてその影響下で、プロレタリア所有形態に基づく体制を確立したのである。

十月革命の故国であるソ連邦での資本主義反革命に対する闘争の中心的な重要性を正しく強調するなかで、原則の宣言の第 3 項目は、1989-90 年における「ドイツの革命的再統一に向けた我々の活発な介入」を記している。西ドイツとの資本主義的再統一の最終的に優勢な諸勢力に対する我々のプロレタリア政治革命のための闘争は、我々のテンデンシーの歴史において最大かつ最も持続した介入を意味した。1992 年の第 2 回 ICL 大会の文書（『Spartacist』[英語版] No.47-48、1992-93 年冬）において、我々は東ドイツ（ドイツ民主共和国）への介入を評価して次のように記した。「勢力間の不均衡はあったものの、事実上、ICL による政治革命の綱領とスターリニストによる屈服と反革命の綱領の抗争があったのである。」

我々はまた、この機会に、原則の宣言の中のいくつかの印象主義的な主張に対して、以前成文化した修正を簡潔にまとめておくことにする。第 3 項目の「中国における『市場改革』の反革命」への言及は、そうした諸方策の導入を資本主義反革命の切迫と同一視している。また我々は、同じ意味で、中国のスターリニスト官僚が「国有企業の完全な解体を待ち望んでいる。それによって、歪曲された労働者国家の計画経済のいかなる残存物も解体することが提起されているのである」と主張した。実際には、資本主義財産の大規模な侵入にもかかわらず、中国は依然として歪曲された労働者国家である。そのなかで経済での産業や金融の中核は、集産化された国有財産に基づいて

いる。社会化された財産の頂点に居座るもろい寄生的カーストとして、スターリニスト官僚は、上からの感知されず段階的な資本主義復活を実行することはできない。しかしながら、遅かれ早かれスターリニスト官僚は分解し、資本主義復活かプロレタリア政治革命かの二者択一が単刀直入につき出されるのである。

原則の宣言（第 7 項目）はまた、ソ連崩壊後の次期に、中間主義やアナキストそれにサンディカリストの潮流の重要性を強調し過ぎている。トロツキーが 1934 年に「中間主義と第四インターナショナル」を書いたとき、大恐慌の結果生じた労働運動内の急進化と 1933 年権力に就いたヒトラーの台頭に直面するスターリン主義化したコミンテルンの破産が、社会民主主義政党内に重要な左翼中間主義諸潮流を生みだした。反対に、現在の政治的色合のなかで、古典的な中間主義というのはほとんど存在しない。すなわち政治的組織のなかで、改良主義から左に分裂するか、あるいは革命主義から改良主義へと右に分裂する組織はほとんど存在しない。我々の左翼敵対者のなかで圧倒的に多いのは、今日、国際的な革命的労働運動の敵対者である凝り固まった改良主義者である。同様に、実際プチブルリベラルである今日のアナキストの政治的特徴は、スターリン主義や社会民主主義による議会主義と階級協調の裏切りに対する激しい反発ではなく、熱心な反共主義である。また今日の労働運動において、ロシア革命の時期のように、真に反議会主義の革命的なサンディカリストに近いものも存在しない。

最後に、我々は、次のように言うことは幾分誤解を招き歴史的発展を無視していることを記す。「ボルシェビキ党が明白に十月革命によってトロツキーによる永久革命理論の正当性を認めなかったこと、さらにはっきりと『プロレタリアートと農民による民主主義的独裁』を否定しなかったこと、こうしたことをトロツキー…に攻撃を加えるため、後にボルシェビキの『古参兵』（例えばスターリン）として装う諸勢力が利用するものとなった」（第 10 項目）。最初に、革命がトロツキーの永久革命理論やレーニンが 1917 年の「4 月テーゼ」で進めた一致した展望に従っていたことは、レーニンの指導部時代にボルシェビキ党内で一般的に認められていた。さらに、革命家が単に正しい理論の成文化を通じて、それにより後の反動的な時期に修正主義の「道筋」をくい止めると仮定することは観念論的である。トロツキーが後に「偽造するスターリン学派」のなかで述べたように、保守的で官僚主義の「古参兵」は、1924 年に「トロツキズム」（すなわち十月の国際主義の原則）への攻撃を始めるなかで、トロツキーあるいはレーニンが 1917 年にすでに書き、実際行ったことにはいかなる制約も受けなかったのである。トロツキーは後に、テルミドール官僚の反動が「反対派や党やレーニンを思想や論拠によってではなく、みずからの社会的バーベルによって打ち破った。官僚の鉛の尻のほうが革命の頭より重かったのである」と記している（『裏切られた革命』）。

かつてのスターリニストや他の修正主義者、そしてまた、変化する日和見主義的欲求に適合するため、矛盾した綱領的立場や疑わしい諸原則さえを通じて準番に立ち回っているサイバースペースの仮想現実には隠れた数多くの素人愛好家や政治的山師たちも今日加わっているが、こうした人々と違って、真のマルクス主義者は、革命的継承と綱領的一貫性を尊重する。それゆえに、ICL は、左翼諸組織の間で唯一、以前の発行文書の合本を利用することができる。我々は、後の経験や新たな研究に照らして、以前の立場を不適當あるいは誤りとして改善しまた拒絶したとき、率直にそして明白に提示しようと努めている。このアプローチは、国際プロレタリアートの集合的記憶を保護する者として行動する我々の責任の中心をなしている。

2010年12月

“Preface to Declaration of Principles and Some Elements of Program”, December 2010

## 出版物の申し込み

申し込みから2年間、発行された全ての出版物(不定期刊)及びピラを郵送します。

2年間の料金:300円(郵便振替も利用できます。00110-0-49515 SGJ)

名前

住所

TEL

スパルタシスト・日本グループ  
〒115-0091 東京都北区赤羽郵便局私書箱49号  
TEL 03-3963-8007

労働組合員による印刷